

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11) 特許番号

第2854263号

(45) 発行日 平成11年(1999) 2月 3日

(24) 登録日 平成10年(1998) 11月20日

(51) Int.Cl.⁶

A 6 3 F 7/02

識別記号

3 5 5

F I

A 6 3 F 7/02

3 5 5 C

請求項の数 2 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平7-136103

(22) 出願日 平成 7 年(1995) 5 月 9 日

(65) 公開番号 特開平8-299582

(43) 公開日 平成 8 年(1996) 11 月 19 日

審査請求日 平成 7 年(1995) 11 月 4 日

(73) 特許権者 593016156

一木 勝治

福岡市西区今宿駅前 1 丁目17番32-706 号

(72) 発明者 一木 勝治

福岡県福岡市西区今宿駅前 1 丁目17番32-706

(74) 復代理人 弁理士 今村 定昭 (外 4 名)

審査官 石井 哲

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 パチンコ台の盤面掃除機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 内部を送風路となす管部材の先端にブラシを設け、該ブラシに振動を与えるバイブレータを備え、前記ブラシにおける毛体の露出幅が盤面の釘や仕掛けの突出幅より長く設けられたパチンコ台の盤面掃除機において、

前記管部材を直管状に形成し、該管部材先端から空気を排気させる送風ファンと前記バイブレータを前記管部材内部に配置すると共に該管部材後端を空気取り入れ用に形成し、かつ前記管部材の手持ち用グリップを該管部材の外周面に突設し全体形状を略ピストル型となるように形成したことを特徴としたパチンコ台の盤面掃除機。

【請求項 2】 ブラシの毛体の先端に柔軟な毛玉が設けられていることを特徴とした請求項 1 記載のパチンコ台の盤面掃除機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、パチンコ台の盤面をクリーニングする際に使用される掃除機に関する。

【0002】

【従来の技術】 パチンコ台の盤面には、たばこの煙によるニコチンやタール、場内のホコリ等が直接侵入して付着したりパチンコ玉を介して付着し、そのパチンコ玉の油膜が浸透して粘着状に堆積していく。このように盤面がうす汚れたパチンコ台では不潔感や古くささ感があって興味がそがれることになるため、これを常にクリーニングしておく必要がある。

【0003】 従来、パチンコ台の盤面をクリーニングするには、例えば、綿棒にアルコール等の溶剤をしみ込ませ、これで盤面を擦って汚れを拭き取るようにしてい

た。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、パチンコ台の盤面には釘や仕掛けが密に設けられているから、上述のような綿棒を用いたクリーニングでは、そのクリーニングに長時間を要して作業能率を向上できないし、また、綿棒が隅々までいき届かなかったり拭き残しがあつたりしてクリーニングの仕上がりが悪いといった問題があつた。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するために、本発明のパチンコ台の盤面掃除機は、内部を送風路となす管部材の先端にブラシを設け、該ブラシに振動を与えるバイブレータを備え、前記ブラシにおける毛体の露出幅が盤面の釘や仕掛けの突出幅より長く設けられたパチンコ台の盤面掃除機において、前記管部材を直管状に形成し、該管部材先端から空気を排気させる送風ファンと前記バイブレータを前記管部材内部に配置すると共に該管部材後端を空気取り入れ用に形成し、かつ前記管部材の手持ち用グリップを該管部材の外周面に突設し全体形状を略ピストル型となるように形成した構成とした。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するために、本発明のパチンコ台の盤面掃除機は、送風ファンを備えた送風路が内部に形成されると共に、手持ち用のグリップを有する管部材と、この管部材の先端に開口された送風路の吹き出し口に取り付けられるブラシと、このブラシに振動を与えるためのバイブレータとを備え、前記ブラシにおける毛体の露出幅が、パチンコ台の盤面に設けられている釘や仕掛けの突出幅よりも長く形成されている構成とした。

【0007】この場合、ブラシの毛体の先端に柔軟な毛玉が設けられている態様がある。

【0008】

【作用】本発明のパチンコ台の盤面掃除機を使用するには、グリップを握って管部材を手を持ち、バイブレータおよび送風ファンを作動させた状態で、ブラシの毛体の先端でパチンコ台の盤面を擦りながら移動していく。このとき、パチンコ台の盤面に洗剤を噴霧等しておくとい。

【0009】従って、バイブレータによりブラシが振動しているため、盤面を擦る際に、持ち手を小さく動かし必要がないし、振動によってブラシの先端が面状に広がったうえ毛体が釘同士の狭い間等へも自由に進入するため、ブラシの毛体の先端を盤面に当接させるだけで、自動的に盤面を擦ることができる。

【0010】又、送風ファンからの送風によって、送風路の吹き出し口から盤面に向けて風が吹き付けられる。この風によって盤面に溜ったホコリが浮き上がるため、

隅に溜ったホコリをも簡単に浮き上がらせることができる。そして、その隅をブラシによって擦れば、隅々まできれいにクリーニングすることができる。尚、ブラシが吹き出し口に設けられているため、風によって浮き上がったホコリは、汚れと共にブラシに付着し、ホコリが撒き散ることはない。

【0011】このように、送風ファンにより盤面に風を吹き付けながらブラシをバイブレータにより振動させて盤面を擦っていくものであるため、短時間で能率よく、しかも隅々まできれいにクリーニングすることができる。

【0012】又、盤面には、釘や仕掛けが突出して設けられており、クリーニングに際し、この釘や仕掛けを曲げたり損傷させたりすることは絶対に禁物である。これに対処するため、毛体の露出幅を、盤面に設けられている釘や仕掛けの突出幅よりも長く形成している。

【0013】従って、盤面をブラシで擦りながら移動させる際に、ブラシの毛体だけが釘や仕掛けに接触し、管部材は釘や仕掛けの上を越えていくため、この管部材が釘や仕掛けに衝突することによる曲げや損傷を防止できる。

【0014】又、盤面の掃除が進むと、ブラシに汚れやホコリが付着するため、この汚れたブラシを洗う必要が生じる。この際、その汚れたブラシをバイブレータによって振動させながらバケツの水等に浸ければ、振動によって汚れやホコリを簡単に洗い落とすことができるし、その濡れたブラシを送風ファンによる送風で速やかに乾燥させることができる。このため、多数のパチンコ台を連続的にいつもきれいなブラシで次々とクリーニングすることができる。

【0015】尚、ブラシの毛体の先端に毛玉を設けると、盤面を傷付けることがないし、汚れやホコリの付着が良好になる。

【0016】

【実施例】以下、本発明の実施例を図面により詳述する。図1は実施例の盤面掃除機を示す断面図であり、まず、実施例の構成から説明する。

【0017】図において、1は管部材で、その外面の中段部に手持ち用のグリップ11が下向きに突設されている。又、この管部材1の内部は送風路10に形成され、かつ後端に空気取り入れカバー12が取り付けられると共に、先端には吹き出し口10aを形成するゴムカバー13が取り付けられている。

【0018】前記送風路10の後端寄り位置には送風ファン2が設けられ、又、送風路10の先端寄り位置にはバイブレータ3が設けられている。

【0019】前記送風ファン2は、管部材1の内面に架設されたモータ20に取り付けられ、このモータ20の駆動により回転して、送風路10の後端側から先端側に向けて送風する。尚、その送風によってモータ20は空

冷される。

【0020】前記バイブレータ3は、管部材1の内面に架設された振動モータ30と、このモータ30の先端部に取り付けられたアダプタ31とで構成され、このアダプタ31の先端面にブラシ4が着脱可能に取り付けられる。尚、32は整流カバーで、前記モータ30の後側を覆う状態に取り付けられ、送風がモータに当ることによる乱流を防止するために流線型に形成されている。又、アダプタ31にも整流面33が形成されている。

【0021】前記ブラシ4は、基板40の正面に合成樹脂製（実施例ではナイロン）の毛体41が円形状に植設されたもので、バイブレータ3への取り付けは、基板40の裏面に突設されたネジ42を前記アダプタ31の先端面に形成したネジ穴34に螺合することによって行なわれる。

【0022】そして、前記ブラシ4をバイブレータ3に取り付けた状態で、毛体41の吹き出し口10aからの露出幅Lが、パチンコ台の盤面に設けられている釘や仕掛けの突出幅よりも長くなるように形成されている。

【0023】尚、図中5はスイッチで、グリップ11から突出するように設けられ、そのスイッチ操作によって送風ファン2とバイブレータ3のモータ20、30を単独又は同時に作動できるようになっている。又、6は降圧トランスで、前記モータ20、30に定格電圧を供給する。尚、スイッチはモータ20とモータ30用にそれぞれ専用スイッチとして独立して2個設けてもよい。

【0024】次に、実施例の作用を説明する。本実施例の盤面掃除機を使用するには、グリップ11を握って管部材1を手に持ち、スイッチ5を操作してバイブレータ3および送風ファン2を作動させる。そして、ブラシ4の毛体41の先端を盤面に接触させ、この状態でパチンコ台の盤面を擦りながら移動していく。このとき、パチンコ台の盤面に洗剤を噴霧しておく。その場合の洗剤としては、液状洗剤をスプレー塗布してもよいが、液垂れ防止の面からはムース洗剤が好ましい。

【0025】このようにして盤面掃除機を使用すると、バイブレータ3によりブラシ4が振動しているため、盤面を擦る際に、持ち手を小さく動かし必要がないし、振動によってブラシ4の先端が面状に広がるため、毛体41の先端を盤面に当接させるだけで、自動的に盤面を擦ることができる。そして、付着力の強い汚れもブラシの摩擦力に加え洗剤の洗浄力によって簡単に剥離することになる。

【0026】又、送風ファン2からの送風によって、送風路10の吹き出し口10aから盤面に向けて風が吹き付けられる。この風によって盤面に溜った汚れやホコリが浮き上がるため、隅に溜ったホコリをも簡単に浮き上がらせることができる。そして、その隅をブラシ4によって擦れば、隅々まできれいにクリーニングすることができる。尚、ブラシ4が吹き出し口10aに設けられて

いるため、風によって浮き上がったホコリは、汚れと共にブラシ4に付着し、ホコリが撒き散ることはない。特に、実施例では、ブラシ4の毛体41に合成樹脂を用いているため、静電気が生じ易く、ホコリの付着力が向上する。そして、盤面はクリーニングが進むにつれ、送風ファンの風によって乾燥が助長される。

【0027】このように、送風ファン2により盤面に風を吹き付けながらブラシ4をバイブレータ3により振動させて盤面を擦っていくものであるため、短時間で能率よく、しかも隅々まできれいにクリーニングすることができる。

【0028】又、盤面には、釘や仕掛けが突出して設けられており、掃除に際し、この釘や仕掛けを曲げたり損傷させたりすることは絶対に禁物である。これに対処するため、毛体41の露出幅Lを、盤面に設けられている釘や仕掛けの突出幅よりも長く形成している。

【0029】従って、盤面をブラシ4で擦りながら移動させる際に、ブラシ4の毛体41だけが釘や仕掛けに接触し、管部材1は釘や仕掛けの上を越えていくため、この管部材1が釘や仕掛けに衝突することによる曲げや損傷を防止できる。

【0030】又、実施例では、管部材1の先端に吹き出し口10aを形成するゴムカバー13を設けているので、管部材1の先端が不測にパチンコ台（釘や仕掛けだけでなく全面ガラス等を含む）に接触しても、その衝撃を吸収してパチンコ台の損傷を防止することができる。

【0031】そして、上述のようにして盤面の掃除が進むと、ブラシ4に汚れやホコリが付着するため、この汚れたブラシ4を洗う必要が生じる。この際、その汚れたブラシ4をバイブレータ3によって振動させながらバケツの水等に浸ければ、振動によって汚れやホコリを簡単に洗い落とすことができるし、その濡れたブラシ4を送風ファンによる送風で速やかに乾燥させることができる。

【0032】次に、図2はブラシの毛体の他例を示す拡大断面図である。この図2で示す毛体41は、その先端に毛玉41aが設けられている。この毛玉41aには、柔軟なモップ状のものが用いられ、合成樹脂による毛体41の先端に穴43を形成し、この穴43に毛玉41aの根元部分を詰め込むことにより取り付けられている。

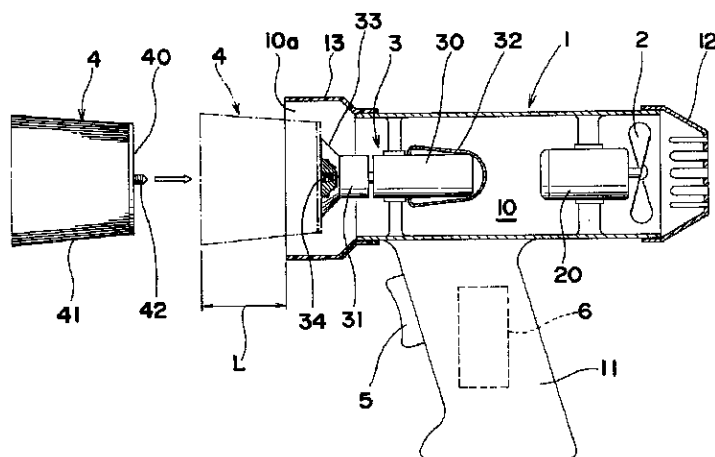
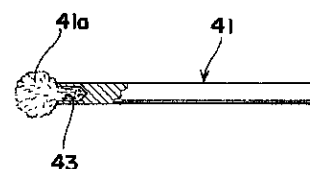
【0033】又、図3はブラシの毛体のその他の例を示す拡大断面図である。この図3で示す毛体41の先端にも毛玉41bが設けられている。この毛玉41bには、柔軟な毛糸44が用いられ、これを毛体41として用いた合成樹脂チューブ45内に通し、その先端を毛体41の先端から毛玉41bとして突出させている。尚、毛糸44の基端は基板40の裏面に延長され、毛玉41bが擦り減ったときには、この毛糸44を引き出して使用できるようにしている。

【0034】従って、上述のように、ブラシ4の毛体41の先端に毛玉41a、41bを設けると、盤面を傷付

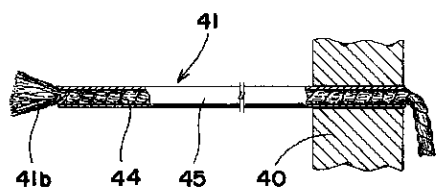
【0038】又、毛体の露出幅を、盤面に設けられている釘や仕掛けの突出幅よりも長く形成しているため、盤面をブラシで擦りながら移動させる際に、ブラシの毛体だけが釘や仕掛けに接触し、管部材が釘や仕掛けに衝突することによる曲げや損傷を防止できる。

- 1 管部材
- 10 送風路
- 10a 吹き出し口
- 11 グリップ
- 2 送風ファン
- 3 バイブレータ
- 4 ブラシ
- 41 毛体
- 41a 毛玉
- 41b 毛玉
- L 露出幅

【图2】



【図3】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開 昭58-94871 (J P , A)
特開 昭60-119904 (J P , A)
実開 昭61-105031 (J P , U)
実開 昭51-129384 (J P , U)
実開 昭61-163684 (J P , U)
登録実用新案3013388 (J P , U)
実公 昭44-26620 (J P , Y 1)

(58)調査した分野(Int.Cl.⁶, D B 名)

A63F 7/02

B08B 1/00